
あにまる物語～優奈～

メルト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あにまる物語〜優奈〜

【Nコード】

N1459P

【作者名】

メルト

【あらすじ】

これはとある女子中学生のはなし。自分のある行動がきっかけで・
・目が覚めたら、えっ！？ 私、イヌになってる！？
ドキドキハラハラの冒険ファンタジー！

これは作者の趣味で気の向くままにgggg書く小説です。あらかじめご了承ください。

すべてのはじめり（前書き）

はじめまして！メルトです。

このたびは『あにまる物語〜優奈〜』のページを開いていただきありがとうございます。

この小説は作者が趣くままに書いていくお話です。

あらかじめご了承ください

すべてのはじまり

ある日のこと。

いつも通りの学校が終わり、部活帰りの道。

外はとても寒く、あたりは6時過ぎにも関わらず、すでに真っ暗だった。

優奈は通り慣れた道を一人歩いていた。

シヤラ〜ン

あ、メール。お母さんからだ。

『今日の夕飯はお鍋にするから、帰りに白菜とお肉買って来てちょうだい!』

つたく〜、人使い荒いんだから。でもこれを言つとまた怒られるんだよね。

そんなことを思いながら、お母さんにメールを返信した。でも、正直お鍋は嬉しい。特にこんな寒い日には格別だよね。

さっ、早いとこ買って帰ろーっと。

信号が青に変わって歩き出そうとしたその時、私の足元を何かがサツと走り抜けていった。

あ、猫だ!

猫は近くの路地に入っていた。

私はとっさに猫の走ってきた方向を見てみると……。

ん？誰だろう？

黒いロングコートを着た男が2人息を切らせている。

あの人たち、見るからに怪しくない？普通、この時間に全力で走らなきゃいけないほど急ぐことなんてまずないよね？朝なら電車に乗り遅れそうとかだけど・・・それにサラリーマンとかなら鞆くらい持つてるだろうけど、手ぶらだし。やっぱりあの猫を追いかけたの、かな？

男たちは来た方向へ戻っていった。

よし、ちょっとついてってみよう。

この時の私はまだ知らなかった。いや、知る由もなかった。

この行動がのちに大変なことに発展することを。

すべてのはじまり（後書き）

さあ、いかがでしたか？

この時点で作者の文章力の無さに気付いたアナタ！さすがです！
それとともに嫌悪感を感じた人はすみませんでしたm（| |）m

文章力の無さに気付きながら、それでも読んで下さる方！
ありがとうございます！！

今後ともよろしく願います。

名探偵登場！？（前書き）

メルトです。

今回はあまり話進んでいません。

優奈ちゃんの人柄などを理解してもらったために・・・

嘘です、すみません。続きが書けてないだけです）、、

では、ごっぞー！

名探偵登場!?

よおし!名探偵優奈、追跡開始!!!
なんか乗り気になってきた!

その見るからくに男たちはそのまま歩いていく。
異常なし!つと。

ピリリリリリ...

お、一人の男の携帯電話らしきものが鳴った。

「はい、こちらオルニト。ターゲットを見失いました。・・・はい。
・・・はい。了解しました。それでは、すぐに第4支部へ帰還いたします。」

ん?ターゲット?あの猫のことかな?でも、たかが猫1匹で大人がここまで一生懸命にならなくてもいいと思うけどなあ。

「おい、グルジ!ガルディ様からすぐに第4支部に戻るようにとの指示だ。行くぞ!」

ふーん。あの2人オルニトとグルジって言うのね。ちょっと背の高い方がオルニトで、片目が大きな傷で塞がってるのがグルジ。よし覚えた!これでも、人の名前とか覚えるの得意なんだよね。小学校

の時とかよく友達と、勝負だー！！とか言っつて新しいクラスメイトの名前当てっこしてたし。

あれ？そういえば名前が外国人っぽいような

・・・え？それは普通最初に気付くだろっつて？気にしない気にしない
ちゃんと気付いたんだから順番なんて関係ない！

カンッ

やばっ！余計なこと考えてたから足元にあつた缶蹴っちゃった！！

・・・ふう。バレてないや。よかったあ。

それにしても・・・さっきから気になってたんだよね。なんかあの
人たち悪役っぽくないなあ。

いや、多分悪い人じゃないよ？雰囲気の問題。だつてさ、悪っぽい
方が感じ出るじゃん。

んー・・・あつ！サングラス掛けてないからか！！そりゃ映画に出
てくるような悪いひとはみんなサングラスしてるでしょ？ほら、あ
のマ リックスだつて・・・って、あれは主演の方が。

とにかく、私の中では悪役＝サングラスの方程式がなりたつてるの。

でも、夜はサングラス掛けてちや何も見えないもんね。
だから夜は顔は隠せないってことか！

うわー！なんかカッコいい！私ってば、本物の探偵みたい！！

名探偵登場！？（後書き）

すごく中途半端なところで終わってしまいました。
でも、次は急展開ですよ！（言訳w

お楽しみに！

過ち

追跡開始から10分。

やっと男たちが止まった。

つかれたー。結構歩いたなあ。

友達とかとしゃべりながらだとゆっくり歩くと楽しいから疲れないんだけど、黙々と歩くのってかなり疲れるんだ。肉体的にも精神的にもね。

それにしても、ココどこだろ？来たことないし・・・

そこまで遠くには来てないはずんだけど、何しろ路地裏ばかり歩いてるから方向分かんなくなっちゃった。ちゃんと帰れるかな

「そろそろ挨拶くらいしたらどうだ、お嬢さん？」
えっ・・・・・・・・・・・・・・・・

「失礼じゃないか、初対面の人にはまず挨拶しなさいって学校で習わなかったのかな？」

マズイ、マズイ、マズイ！！！！バレてる、絶対バレてるよコレッ！

何でバレたんだろ？・・・あっ！あの時の物音気付かれてたんだ。

そうとも知らず付いてきちゃった。どうしよう。

とりあえず、謝るしかない・・・よね。

「あの一、えっと……う、ごめんなさい！」

よし、ちゃんと頭下げて謝った。
てか、今思うと何でこんなことしたんだろ。行き当たりばったりの
行動って怖いね。
早く帰ってお鍋たべたいな。

なんてことを考えながら顔をあげると

「良く出来ました、って言いたいところだが、生憎俺たちはそんな
優しくないんでね。」
と言うが早いか、懐からアルモノを取り出した。

そう、拳銃。

私はその場から動かなかつた。いや、動けなかつたんだ。
目の前の出来事があまりに突然すぎて・・・

そして気付けなかつた。

後ろにもう一つの存在があることに。

過ち（後書き）

さあ、スペシャルゲストが登場です。
一応主人公の優奈ちゃんです！

優「一応って何なのよ！」

さて、今回ですが

優「あ、スルー……」

なんかマズイことになったねえ。

優「いきなり拳銃はダメでしょ。」

それだけヤバい奴らってことです。

さて、優奈ちゃんの運命やいかに！？
それでは、また次回！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1459p/>

あにまる物語～優奈～

2011年6月17日08時21分発行